



令和の幕開けは「実」の1年

校長 小林 理人

新しい元号「令和」の元年、2019年も残り数日になり、新年へのカウントダウンが始まりました。明日から冬休みとなり、クリスマスや旅行、お正月など、年末年始の楽しいイベントが続きます。また、年賀状を書くことや大掃除など年末年始ならではの作業もあります。

私は毎年、6年生が二松ソーランに込めた4字熟語を使った年賀状を作ることにしています。今年は『**全輝熱力**』（ぜんきねつりょく）「一人一人の個性を發揮し、全力で取り組もう」というメッセージを新春への誓いの言葉にしました。また、年末には一年間を振り返り、漢字一字で一年の思いを教職員や子供たちに伝えることにしています。昨年は、「人間の強さや温かさを実感した」という思いを「人」という漢字に表し、伝えました。そして、今年は「**実**」という漢字でこの一年の思いを伝えることにしました。国立二小がこれまで大切に育ててきたことが実り始めことへの喜びを表した一字です。

欠席0で締めくくった「平成」そして、運動会・学芸会

具体的な実りを紹介します。まず、一学期には欠席0の日が2日間ありました。児童・生徒の不登校が社会問題となる中で、欠席者0は大きな意味をもつことです。また、2学期に行われた運動会や学芸会で見せてくれた子供たちの成長した姿も大きな実りの一つです。本校が大切にしている「子供が主役」という言葉を子供たち一人一人が意識し、保護者の皆様からいただいたアンケートの中にも主役となって活躍する子供への賞賛や励ましがたくさんありました。

主役として身に付けた力を活かして

実りは大きな行事ばかりではありません。先日、副校長からうれしい報告がありました。これまでPTAの活動として行っていたエコ活動（紙類を集めてお金に換えて、その代金で花を植える活動）にたくさんの子供たちが参加をすることになったのです。副校長からの呼びかけに集まった子供が、なんと91名。そして、最上級生の6年生が中心となり、活動の計画を立ててくれました。

また、持久走旬間の間、ペースメイクをした体育委員会の子供たちが、持久走旬間後の1週間、体を動かす楽しさをもっと味わうことができるように、体育館で行う障害物走を計画しました。

どちらも予定にはなかった取組です。子供の成長した心、身に付けた力、そして、これまでの教育活動を通して得た自信を活かして考えた新しいチャレンジです。次から次へと現れる子供たちが主役となって活躍する姿は、令和元年のうれしい「**実**」です。

さすが！ 二小のリーダー

副校長

それは、PTA文化担当の方の提案から始まりました。

「あまり知られていないエコ活動を、子供たちの力を借りて二小全体に広めたい。」

私は、この素敵な提案を受け、各担任にエコ活動のポスター作りを呼びかけてもらいました。予想以上の希望者にどう進めていけばよいものかと6年生に相談すると、1年生はキャラクター決め、2・3年生はクラス掲示用のポスター制作、4年生は全校朝会で発表等、見事にみんなが参加できる方法を考えてくれました。さすが頼れる二小のリーダー！子供が主役の二小らしいエピソードでした。